

まんざいくどち  
万歳口説

(本調子)

うや かたち う  
1. 親め仇ゆ討たんでい

まんざいしがた う  
万歳姿に打ちやつり

ぼう つい たち しく  
棒と杖とに太刀仕込でい

親の仇を討とうと万歳姿(芸人姿)に身をやつし、  
棒と杖に太刀を仕込んで。

あみがさふか かうかく  
2. 編笠深く顔隠ち

しぬ しぬ た ん  
忍び忍びてい立ち出じてい

編み笠に顔を深く隠して人目を逃れて出発し、  
村や里をいくつも越えてきて。

むらむらさとざとう く く  
村々里々越い来りば

てら しぬ ていち むん  
3. 平良や忍ぶ敵め門

ちよあでー み みすぐ  
兄弟しり目に見過してい

うしる みち みぐ ち  
後ぬ道に廻り来てい

平良は敵の隠れ家なので我々兄弟はそこを  
横目で見やり、後方の道から回って来た。

ゆ すいゆし うんかみ  
4. 行く末吉ぬ御神に

いぬ くる わ ていち  
祈る心は我が敵に

いす ひちゃ  
急じ引合わたぼりてい

末吉社壇に参拝し、心で祈ることは  
敵に早くめぐり合わせてくださいと。

ぬぶ しゃだん ぐわんた  
5. 登てい社壇に願立ていてい

まふえ ん なが  
真南に向かいてい眺むりば

ゆむ ちしち うむしる  
四方ぬ景色ぬ面白や

社壇に参拝しお願いした後で南を眺めると  
周囲の景色がとてもすばらしい。

ち い きら ま とうなが  
6. 計伊と慶良間ぬ渡中には

あま ついりぶに う  
海士ぬ釣舟浮きつりてい

うち かむみ みまご  
沖ぬ鷗と見紛うや

くだ くだ ち  
すりから下り下り来てい(エイ)

計伊と慶良間の海峡を見ると、漁師の釣り舟が  
浮き連なっていて沖のカモメと見間違えるほどだ。  
そこからずっと下ってきて、寺の門に立ち寄り  
休む2人に大望が秘められていることを  
知る者は誰もいない。

うていら ぐむん た ゆ  
御寺御門に立ち寄り

やし しがた ゆ す し  
休む姿や余所知らん

たかてらまんざい  
舞踊「高平良万歳」の一節

